

刊行にあたって

中部大学長 飯吉厚夫

本報告書は、中部大学における「自己点検・評価」（平成11年度）の作業をまとめたものである。

本学では平成5年より、自己点検・評価委員会を設置して大学の教育・研究面での改善、改革のための諸活動を行ってきた。平成6年には、同委員会の下に教育課程部会を設けて「中部大学における新教育課程について」の検討を行い、平成7年から新教育課程を実施した。また平成6年、教育研究評価部会を設けて検討を行い、平成7年より毎年度、学生による授業評価を実施してきた。平成11年11月には中部大学として初めての全学的自己点検・評価を実施することとした。本報告書は、その結果を取りまとめたものである。教育・研究面はもとより管理運営、施設・設備なども含めた初めての本格的な全学的自己点検・評価がその内容となっている。他方、平成11年12月には他学部在先駆けて工学部の外部評価を実施し、その結果は平成12年3月に外部評価報告書として公表した。

更に、平成12年4月、自己点検・評価委員会では、平成7年の改定から5ヶ年を経過した教育課程を見直して、来るべき世紀の社会ニーズと、少子化時代を迎えるにあたっての中部大学の教育カリキュラムを構築するために、大学教育改革委員会を設けて活動を開始している。

今回の自己点検・評価はこの教育改革に先立って行われたものであり、時宜を得たものと考えている。換言すれば、現在行われている大学教育改革の成否は、自己点検・評価が適切にまた厳しく行われたかという自己点検・評価の「評価」を示すものと考えられよう。

新しい変化の時代を迎えて、大学、特に私立大学にも新しい変化の大きな流れが押し寄せてきている。もちろん時代に流されてしまつては、自己を見失ってしまうことにもなりかねない。幸い、今回の自己点検・評価の作業を通して全教職員各自が中部大学の抱えている課題を認識できたものと思う。この共通の認識が、新しい中部大学への第一歩となり、大学教育改革に結実するものと確信している。

最後に、本報告書の公表により学外からの忌憚のないご意見・ご助言を賜れば幸いである。